



CESS^{*}(Committee for Expertise of Shipbuilding Specifics＝造船関係専門委員会)は2015年8月27日に中国のハルビンにて、年次総会を開催した。日本、欧州、中国、韓国、米国の造船団体等が参加し、世界の造船業を取り巻く諸問題について議論を交わした。今次総会は中国の主催にて開催された。

年次総会では、過去1年間のCESS活動のレビューと今後の活動計画の検討を行ったほか、重要課題への業界共通の意見発信に向けたさらなる連携について意見交換が行われた。

出席者はCESSがプラットフォームとして今後も規制問題といった重要課題に対し、相互で認識を共有し、これを他の海事団体に意見発信していくことで合意した。

現在進行する重要な諸課題が議論された。特に船舶からのGHG排出削減問題について議論が行われ、現在の課題である将来の省エネ技術と既存船対策に重点が置かれた。造船業界は省エネ技術によってEEDI規制における次のフェーズの目標達成に重要な役割を果たすだろう、また同様に海事産業が着目する既存船の効率改善に関する対策についても、造船業界は実践的かつ効果的な解決策を見出すために今後も貢献を続けるだろう。

さらに、近々施行されるIMOのゴールベーススタンダードに基づく安全のための設計の透明性の規制要件を満たす知的財産保護といった種々の課題にも議論が及んだ。効果的で持続可能な規制の策定にあたり、造船業界がより多くの役割を果たしていくことが認識された。

2014年のパリMOU及び東京MOUのポートステートコントロール(PSC)の活動についても報告が行われ、両地域におけるPSC活動はこれまで同様、着実に成果を上げ

^{*} 旧称:サブスタンダード船排除委員会(Committee for Elimination of Substandard Ships)。2005年の中国・杭州で開催されたJECKU TEM以降、新名称に変更し機能を拡大し活動を開始。

CESS 2015
Press Release

ていることが報告された。造船の品質に起因する船舶の欠陥件数は依然少なく、拘留された船舶の数も昨年より改善したことが報告された。一方、冷凍船や一般貨物船のような高齢船が特徴づけられる船種では拘留される船舶の比率が平均を超えており、拘留比率はそのような高齢船が新造船にリプレースされるか、他の船種に代替されることで改善される可能性がある。

CESS のメンバー団体は将来の造船業界の繁栄にはメンバー間のさらなる結束がより一層の重要性を持つこと、直面する諸問題を業界が好ましい方向に効果的に解決するため、今後 1 年間の CESS 活動の更なる活性化が必要不可欠であることに合意した。今次総会の結果は 2015 年 11 月 4～6 日に中国・中山市で開催される JECKU TEM(五極造船首脳会議)で報告される。

2015 年 9 月 15 日

CESS 造船関係専門委員会
委員長 岩本 洋(Dave Iwamoto)

(気付)

一般社団法人日本造船工業会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-12
日本ガス協会ビル 3 階
minato@sajn.or.jp